

インフルエンザ対策…うがい・手洗い、体温測定、マスク…

インフルエンザによる本校の臨時休校措置が解除となりました。しかし、世間ではまだまだ感染が拡大しており、引き続きの注意・予防が大切だと思われま

す。そのため、これまで同様に、毎日の体調管理も重要です。御家庭では、体温計を使う頻度も高いと思いますが、下のような、聞こえにくい方にもやさしいユニバーサルデザインの体温計もあります。

子どもたちが、こうした聞こえにくさをカバーしてくれる機器に興味を持ったり、積極的に活用していく姿勢を持つことはとても大事であり、障害理解を進め、自立していく上で重要ではないかと思われま

す。

実はこのマスクについてですが、聴覚障害の医学生さんにとって、手術場でのコミュニケーションに支障があるというお話もあります。口元が見えるマスクも検討されたようですが、コスト面がクリアできないような話も…。

この話と同様に、通学の電車の人混みの中でインフルエンザ予防のマスクを着用されている方や友達との会話でも、支障をきたすはずですね。

さ細なことかもしれませんが、マスク一つから、不便なことを実感したり、障害を考え直す機会にもなります。そのことで、それを改善しなくてはと、自分で調べたり行動したりことことに結びついていくと尚、素晴らしいと思うのですが…そうした積み重ねが、障害を克服する力に結びついていくのではないかなと思ったりもします。

数年前、韓国の企業が開発してた、口形や表情が見える、「ヌード(透明)マスク」(下の写真)今もあるのかな?

興味ある方は、ネットで検索してみてください。

ふるえて知らせる 電子体温計

シチズン製

聞こえにくい方にも、やさしいユニバーサルデザイン。検温終了を振動して知らせてくれます。メモリー(前回値記憶)機能付き。防浸(防水)タイプで、水洗い可能。



インフルエンザがはやり、町でもマスクをしている方を多く見かけます。聴覚障害の方にとっては、口話や手話で会話をするのに、マスクのせいで読話ができなかったり、表情が読み取れなかったりと、邪魔に感じるこ



中央日報HP(2006.03.21)より

「うがい」については、次ページにて紹介します。

発音指導の立場で…「うがい」のしかた

外から帰ったら「うがい」と「手洗い」をする習慣は、幼いころから習慣づける必要があります。

「うがい」自体は、小さいうちは難しいですが、親や周りにいるものが一緒に楽しくやり方を示してあげることが、できるようになる近道です。

また、うがいだけではありませんが小さいときから、いろんな口や舌の動きができることは、発声を育てる上で有効です。

「がらがら」うがいは、小さいお子さんには難しいものです。

できないうちは「ぶくぶく」うがいだけでも効果がありますので、うがいをする習慣づけのために「ぶくぶく」うがいを続けましょう。

目安ですが、「ぶくぶく」うがいは、2歳、「がらがら」うがいは3歳ぐらいからできるようになります。

吐くのが難しい!…水を含んだとき、「吐く」ができず、反射的に飲み込んでしまうお子さんがいらっしゃいます。

お風呂など、めいっばい含んだ水を吐いていいときに「べー」と出したり、「ぶーっ」と吹き出したりして遊ぶといいですね。

発音指導でカ行音の音を出させるため、「うがい」を利用することがあります。

まずは、のどの奥に水をためたまま、上を向いて口を開けるようになることがポイントです。

いきなり上を向けないときは、スモールステップで上が向けるようにしていきます。まずは、水を含み口を閉じたままで上を向く。天井に、かわいい絵などをはって、だんだんそれを見せるようしたり、手鏡に映るようにしてあげたり、楽しく、続けられるようにしていくことが大切です。そのあと、上を向いたままで口が開けられるようになります。開けたときに、水があったら「すごーい」「見えたよ」と褒めたり、楽しんであげるといいですね。

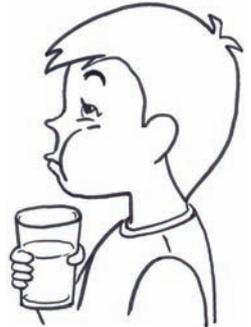
のどの奥に水がためられるようになったら、長い時間ためておけるようなチャレンジや遊びを加えます。

そのあとは、「あー」と声を出して、水がはじけるのを楽しめるようにすることです。声を出すためには、胸やほほ下に手をおいて「ふるえ」を感じたりすることも必要なことがあります。

「右のほっぺにためて、「左のほっぺに動かして」と、いろんな口の動きができることも、発音の基礎、発声器官の柔軟化運動になります。

コップに水やぬるま湯を用意。お茶ですると殺菌効果があります。

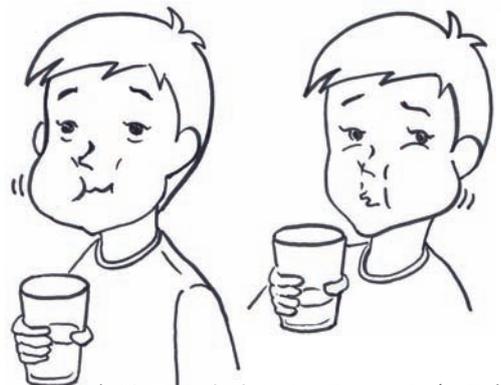
口に水を含み、正面を向いて「ぶくぶく」うがいをする。10回くらい。
(口の中をきれいに
する目的)



はき出す。
そして、また、
水を含む。



上を向いて「がらがら」うがいをする。10秒くらい2回。なるべくのどの奥の方で。



水はそのままにして、口の中で水をあちこち動かしてからはき出す。

行事報告 …今後、聾学校で実施してきた行事を取り上げ、報告していきたいと思います。

6月に行った幼児体験学習を紹介してみます。
聾学校をご存じない方を対象に、幼稚部の授業を体験してもらう企画です。本校の在籍児にとってもたくさんのお子さんたちと一緒に活動できる機会にもなっています。

外部より幼児17名、保護者20名、他機関（幼稚園の先生や教育委員会等）12名の参加がありました。幼稚部授業の参観の後、体育館に会場を移して、「夜店屋さんごっこ」の合同保育を行いました。子どもたちは、金魚すくい、ヨーヨー釣り、くじ引き、輪投げ、お面屋さん、おばけ屋敷、東京ケーキ、かき氷、ポップコーンのお店を、お母さんと一緒に回って楽しみました。

お母さんとどんなお話しができたでしょうか？

第1回幼児体験学習

また、お店の人とどんなやり取りができたでしょうか？お家に帰って、家族にどんなことをお話ししたのでしょうか？

締めは、全員参加しての「盆踊り」。やぐらを囲み、教員の仮装した「もったいないばあさん」も登場し、「もったい…音頭」を踊りました。やぐらの上で太鼓をたたいたりもして、みんなで楽しみました。

子どもたちの感想では、ステージ上を真っ暗にして作ったおばけ屋敷が好評で、泣いた子もいれば、何度も入った子もいて、印象深かったようです。午後からは、希望者が小・中学部、高等部の授業参観をし、個別の教育相談を実施しました。

第2回幼児体験学習は、10月6日(火)、 「いもほり」遊びを実施します。

夏休みに行われました。昨年小学部だけで実施していたのを、今年は幼稚部、中学部にも拡大しました。

難聴特別支援学級など他校でがんばっている子どもたちと、在籍している子どもたちの交流の場として企画しています。お互いが刺激しあえる場、同じ障害のある友達として認め合い、育ち会う機会を提供できればと、実施しました。この機会を利用し、各部では、希望に応じ保護者・担任への教育相談も実施しました。

各部での活動を振り返ってみましょう。

幼稚部は、外部より幼児8名、保護者9名、幼児の兄弟6名、在籍園の担任等4名の参加がありました。幼稚部の庭の芝生の上に作ったプールで「水遊び」を楽しみました。シャボン玉、水鉄砲、金魚すくい、ペットボトルロケットをして楽しみました。ロケットが、遠くまで飛んでいくと歓声を上げ、追いかけていってました。お昼には、そうめん流しで、おなかいっぱい食べ、すいか割りもして楽しいひとときを過ごしました。

小学部は、ゲームや製作で交流しました。ちょっと変わった「いすに座った風船バレー」では、見事な連携プレーや珍プレーが続出し、笑いが絶えませんでした。その後、伝承遊びや自由遊びで友

幼稚部・小中学部サマースクール

達とのかかわりを深めました。昼食後は、二班に分かれて、製作活動。スライム班はその独特の感触を味わいながら思い思いの色を混ぜて遊びました。キーホルダー班は、夢中でお気に入りのキャラクターや顔を描いて焼き上げました。参加児童16名（うち外部より7名の児童）、みんなにここに満足顔でした。

中学部は、実態に合わせて、二班に分かれて活動を行いました。A班は、他校から3名、お手いで高校生2名の参加があり、本校生徒を含めた10名で活動しました。普段、学校生活で、ことばの通じにくさを感じている生徒たちです。聾学校と中学校の違いを話し合っ、それぞれの良さを考えたり、コミュニケーション手段について見つめ直したりし、障害認識を深める機会になりました。

B班は、本校生徒3名で、日ごろの活動を延長した形で1日楽しく過ごしました。まず、畑で水やり、草引き、夏野菜の収穫に汗を流しました。一息入れてみんなで野外調理に掛かり、飯ごうで炊いた御飯のおにぎり、夏野菜の肉みそ焼き、ポテトサラダ、いちごミルクを味わいました。後片付けも協力して手際よくできていました。

サマースクールは、来年も実施する予定です。

松山聾学校、第1回学校公開のお知らせ

日時: 9月24日(木) 8:50~15:20 場所: 松山聾学校

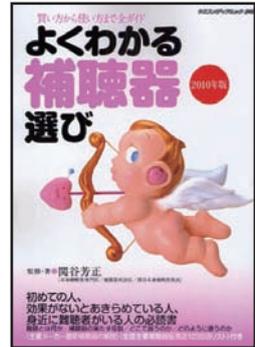
13:00~15:00には、きこえの体験コーナー(最新の補聴器の試聴、聴力測定などを行います。)、手話入門講座(日常よく使う手話や指文字を学べます。)を、聴能室において開催しておりますので、お立ち寄りください。

書籍紹介

■ 『よくわかる補聴器選び 2010年版』

関谷芳正/監修 八重洲出版/発行 定価 1,000円+税

前回08年8月発行の改訂版。各メーカーの主要補聴器商品アルバムが改められたり、「難聴と補聴器の理解」についての内容も見直されています。補聴器の最新の情報が得られます。これからも毎年改訂発行して下さるといいなあと思います。



■ 『基礎から学ぶ手話学』

神田和幸/編著 福村出版/発行 定価 2,300円+税

言語としての手話の特性や文法、学習方法のあり方、聴覚障害者をとりまく現状などを最新の知見に基づき解説。

本書の構成…1章 手話学の基礎 2章 手話のしくみ
3章 手話学習 4章 手話通訳
5章 手話と聴覚障害者支援 6章 ろう文化



■ 『「ろう文化」の内側から ~アメリカろう者の社会史~』

キャロル・パッデン 森 壮也
トム・ハンフリーズ/著 森 亜美/訳 明石書店/発行
定価 3,000円+税

聾学校、アメリカろう者劇団、手話辞典登場などの歴史的に重要な瞬間の光と影を映し出し、現代との関連性を論じる。人工内耳などの科学技術に対するろう者の不安にも向き合い未来を展望する。



■ 『ろう者の世界』

木村晴美/著 生活書院/発行 定価 1,500円+税

反響を呼ぶ、メルマガ「ろう者の言語・文化・教育を考える」から79号からの50編を収める。第一弾の「日本手話とろう文化~ろう者はストレンジャー」に続く第2弾。



■ 『食とコミュニケーション 発達と援助』

山崎祥子/著 芽ばえ社/発行 定価 1,300円+税

聴覚言語士による、コミュニケーション発達の援助のために、食の重要性や摂食指導について述べた冊子。発音指導の基礎、乳幼児さんの指導・介助に役立ちます。『食べもの文化』2009年9月号別冊。

